提出書類の記載上のお願い（生理学）

(1) 推薦書

別紙１を参考に、指定の様式を用いて A4 用紙 1 枚程度に納まるように作成してください。

推薦者は所属の学長または学部長（大学以外にあっては所属機関の長）を始め、それ以外の方でも差し支えありません。

推薦書は、推薦者の方によって厳封されたものを提出ください。

(2) 履歴書

別紙２を参考に、指定の様式を用いて A4 用紙に作成してください。

(3) 業績目録

別紙３を参考に、A4 用紙に作成してください。

(4) 教育・研究に関する実績と抱負

形式は任意です。A4 用紙に 2,000 字以内で読みやすく記載してください。

(5) 主要原著論文 10 編の PDF ファイル

原著論文のうち主要なもの 10 編の PDF ファイルを提出してください。

原著論文のファイル名には業績目録の作成時に付けた通し番号を入れてください（別紙 3 参照）。

例.「原著論文 18.pdf」,「原著論文 22.pdf」,

「原著論文 3（学位論文）.pdf」...学位論文が主要論文に含まれる場合

別紙１（推薦書）

推薦書は、本学部ホームページまたは JREC-IN のホームページからダウンロードした様式の項目に沿って、下記の例を参考に記入してください。
読みやすい文字サイズ（11～12 ポイント程度）を用い、A4 用紙 1 枚程度に納まるよう作成をお願いします。

推　薦　書　　記入例

（ふりがな）　しまね　ぼたん
氏　　名　　島根　　ぼたん　　生年月日（XXXX 年 X 月 X 日生）

候補者の所属及び現職名

□□大学□□学部・・・

推薦する講座（診療科・施設）名及び職名

生理学講座（神経・筋肉学）　講師

候補者の主たる研究分野

□□□□学

推薦理由

□□□□・・・

参考事項

XXXX 年 X 月　第□回□□学会□□受賞

XXXX 年　XX 月　XX 日　　推薦者の職　氏名（自署）

□□大学□□学部□□講座　教授　　出雲　二郎　㊞

島根大学学術研究院医学・看護学系長　　竹谷　健　殿

別紙２（履歴書）

履歴書は、本学部ホームページまたは JREC-IN の HP からダウンロードした様式の項目に沿って、下記の例を参考に A4 用紙に読みやすい文字サイズ（12 ポイント程度）を用いて作成してください。
枚数は任意としますので、経歴等は必要に応じて行を追加して記載願います。

履　歴　書　記入例

XXXX 年 XX 月 XX 日作成

（ふりがな）　しまね　ぼたん
氏　　名　　島根　ぼたん　　旧氏名（　　）★必要に応じて旧姓等記載
性　　別　　女性
生年月日　　XXXX 年 X 月 X 日　（年齢 XX 歳）★履歴書作成日現在の満年齢

現　　職　　□□大学□□学部　□□・・・

現 住 所　　〒XXX-XXXX　□□県□□市□□町 XXX 番地
電話番号　　XXX-XXXX-XXXX
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　　mga-jinji@office.shimane-u.ac.jp

学　　歴

XXXX 年 X 月　□□立□□高等学校卒業
XXXX 年 X 月　□□大学□□学部□□学科卒業
XXXX 年 X 月　□□大学大学院□□研究科□□専攻□□課程修了
★高校卒業以降の学歴を、年月の古い順に記載

学　　位　　XXXX 年 X 月　博士（医学）　　授与大学名（　□□大学　）

免許資格（認定医・専門医等）

XXXX 年 X 月　医師免許（第 XXXX 号）
XXXX 年 X 月　□□□□認定医（第 XXXX 号）
XXXX 年 X 月　□□□□専門医（第 XXXX 号）
★医師免許など国家試験よる免許・資格、学会認定専門医等の資格を、取得年月・登録番号とともに記載

職歴・研究歴

XXXX 年 X 月～XXXX 年 X 月　□□大学医学部附属病院□□科研修医
XXXX 年 X 月～XXXX 年 X 月　□□大学大学院□□研究科□□専攻□□課程大学院生

XXXX 年 X 月～XXXX 年 X 月　　米国□□大学□□病院□□科研究員

★職歴（職名・所属）、研究歴（身分・所属）等を、採用～退職または始期～終期の年月の古い順に記載

★研究生・専攻生、外国出張（1 ケ月以上）・外国留学についても記載

所属学会、学会役員及び社会サービスに関する事項等

XXXX 年 X 月　□□□□学会員
XXXX 年 X 月　□□□□学会評議員

賞罰、研究助成等

XXXX 年 X 月　第 X 回□□□□学会学会長賞
XXXX 年 X 月　科学研究費補助金　若手研究 B
XXXX 年 X 月　□□大学教育功労表彰

主たる研究分野

□□学、□□手術、□□□□医療、□□に対する□□の研究　★簡潔に記載

論　文　数　　XXX 編　（欧文 XXX 編、邦文 XXX 編）
うち最近 5 年間の発表（欧文 XXX 編、邦文 XXX 編）
著　書　数　　XXX 編　（欧文 XXX 編、邦文 XXX 編）
うち最近 5 年間の発表（欧文 XXX 編、邦文 XXX 編）
学会発表数　　XXX 回　国内学会 XX 回
（特別講演 X 回、教育講演 X 回、シンポジウム X 回）
国際学会 XX 回
うち最近 5 年間の発表
国内学会 XX 回
（特別講演 X 回、教育講演 X 回、シンポジウム X 回）
国際学会 XX 回

★発表論文数を欧文と邦文別に記載

★国内学会は回数の内訳が判断できるよう、（　）内に特別講演・教育講演・シンポジウム等の回数を記載

上記のとおり相違ありません。

XXXX 年　XX 月　XX 日　　候補者の氏名（自署）

島根　ぼたん　㊞

別紙 3（業績目録）

業績目録に指定の様式はありません。A4 用紙に下記内容を記載してください。

記載内容

(1) 「学術論文」「著書」「特別な学会発表」の順に記載してください。
(2) 学術論文は「原著」「症例報告」「総説」「その他」に分類し、欧文論文・邦文論文ごとに古いものから年代順に記載し、それぞれ通し番号を付けてください。
原著は査読があるものに限り、それ以外はその他に分類してください。
(3) 各論文の著者名のうち、候補者自身の氏名には下線を引いてください。
(4) 著書は「欧文著書」「邦文著書」に分けて年代別に記載し、それぞれに通し番号を付けてください。
(5) 学会発表は「国内学会（特別講演、教育講演、シンポジウム等、特別なもののみ記載）」及び「国際学会（一般演題を含む）」に分けて記載し、それぞれ通し番号を付けてください。
(6) 文部科学省（文部省）、厚生労働省（厚生省）等の班会議報告は学術論文（その他）としてください。
(7) 学会抄録は Proceedings 等に原著形式で掲載されたもの以外は記載不要です。この場合は学術論文（その他）としてください。

主要論文 10 編

(1) 業績目録中の主要原著論文 10 編については、各論文の通し番号の前に「○」を付けてください。
(2) 学位（博士）論文には、通し番号の前に「◎」を付けてください。
その学位論文を主要論文 10 編に含める場合は「○◎」としてください。

業績目録　記入例

学術論文

欧文原著

○◎1. Dimatteo MR, Shimane B, Friedman HS: *Helicobacter pylori* infection and the risk of gastric carcinoma. Lancet 340: 1359-1362, 2006

2. Shimane B, Izumo J: Protection of cerebral microvasculature after moderate hypothermia following experimental focal cerebral ischemia in mice. Brain Pathol 17: 174-183, 2007

○3. **********

邦文原著

1. 島根ぼたん、出雲次郎：甲状腺機能亢進症によるてんかん発作
日内会誌 125: 123-125, 2008.

2. **********

欧文症例報告

1. **********

邦文症例報告

1. **********

欧文総説

1. **********

邦文総説

1. **********

その他

1. **********

★頁を改める

著　書

欧文

1. Shimane B: Undergraduate and postgraduate rural training. In: Rural Medicine, William JW ed., McGraw-Hill Inc, New York, pp. 15-30, 2007
2. **********

邦文

1. 山田太郎，島根ぼたん：地域医療と医学教育，地域医療．出雲一郎編，島根書院，東京，pp. 65-75,2007
2. **********

★頁を改める

特別な学会発表

国内学会（特別なもの）

島根ぼたん，出雲次郎：*Helicobacter pylori* と粘液組成.
シンポジウム「*Helicobacter pylori* と胃炎」，第 70 回日本〇〇学会総会，2008

国際学会

Shimane B, Izumo J:　Apoptotic neuronal death in ischemia-reperfusion injury of the brain. The 20th International Congress of Neuropathology, Paris, 2008